

唐 松 山 (途中まで) 山 行 記 録



目的地	唐松山	期 日	平成17年6月19日(日)
山人	CL 五十嵐 隆・笠原 正雄	特 記	YHC の先達五十嵐氏と初めて一緒に山を歩く。

地 点 名	(着) ~ (発)	天候	記 事
与 板	午前 8:50 発	晴	早朝 1 時間半山の下草刈をしてから、CL 車で出発。高速を使う。
中 子 沢 羽 川 荘 前 P	10:10 発	〃	共同電波塔を目指す。公園上の砂防ダムを超えて踏跡を行くも途切れる。元に戻り農道から神社に上がり裏の遊歩道標を進む。杉混じりの喬木帯を登るが、途中から藪に覆われ、クモの巣とヤブコギ始まる。
標 高 点 4 0 8	10:50 (休む)	〃	電波塔回りから灌木に変わり道も現れる。行く手が見渡せる。
三角点 495.3	11:40 (休む)	〃	H403 から左右が見渡せる尾根を一度下り、登りとなり灌木から喬木に変わる。傾斜が増し再びヤブコギで急登となる。直前で道が現れ、米沢からあわせる小ピークに出る。ヤブコギと暑さでかなり体力を消耗した。
滝 見 場	12:10 (休む)	〃	H495.3 以後ヤブコギは無い。CL が先行する。灌木帯の尾根道の登降から不動滝の滝見場。手ノ又沢コースとの分岐点。少し食べる。
上 権 現 合 流 点	1:15 (休む)	〃	左から下降してくる上権現との道と合せる。この後、やや下り、鏡池へ。少し残雪を踏む。この辺り花が楽しめる。池を過ぎると徐々に急登へ。稜線に出れば北の景色が開ける。先行 CL との距離がどんどん開く。
猫 岩 手 前 引 返 し 地 点	2:15~2:45	〃	喬木の急登になると暑さまでバテバテ。帰りの時間も考え、先行 CL に戻ろうと白タオルを投げる思いで大声を出し呼びかける。先に腰を下ろしてランチ中の彼の所に追いつく。スープ・パン・おにぎりで酒無しランチ。この手前で下山してくる数パーティーと遭う。我々を見て「これから頂上まで行くのだろうか？」と話している者がいた。
上 権 現 合 流 点	3:25 (休む)	〃	急降下で不注意から小石をけり落としてしまった。「ラーク」。CL を直撃しなくてホッとした。鏡池辺りで花を撮影しながら進む。枝に引っかかっている A4 大の氷を取って、顔を冷やす。ここに着いて腰を下ろす。
滝 見 場	3:50 (休む)	〃	今度は手ノ又沢コースを下る。日差しもやわらかくなる。
手ノ又沢登山口	4:10	〃	こちらのコースは傾斜もそこそこで、広い道だ。
林 道 歩 き		〃	羽根川沿いの道に出ると舗装道となる。農作業中の夫婦に旨い水の出ている所を尋ねる。羽川荘隣の「オラチの前に山の湧き水を引いてあるから汲んで行け」。歩き出すと後ろからその親父さんが車で来て、乗せてくれた。羽川荘直前を先行歩行中の CL を脇目で追い越し「オラチ」へ行く。持っていた容器全部にホースから勢い良く出ている水を汲む。アリガタヤ。
羽 川 荘 前 P	4:50	〃	羽川荘で入浴。助手席で 35 缶ビールを飲み極楽々々。帰路は下道。
与 板 着	7:00	〃	日差しを浴びての山行で、体の火照りがいつまでも残った。

YHC 会山行 CL 五十嵐でこの山がかかった。参加予定者の都合で 9 時出発である。ならば下草刈ののち参加しようと連絡した。ところが予定者が不都合となり 2 人での山行となった。出だしは川東遊歩道の標識があるにもかかわらず、登山道に上がって 5 分も経たないうちに CL オハコのヤブコギとなる。このコースは歩かれていないようだ。暑さも加わり、早朝の下草刈のせいもあってだろうか、鏡池後の急登でバテた。しかし翌日の筋肉痛は無かった。先刻承知であったが、CL の速さには到底ついては行けなかった。日報発行の「新潟ファミリー登山」で近年の新刊で唐松山が追加された。そのせいか思いのほか入山者が居た。皆手ノ又沢からだ。次回はこちらからピークを目指してみよう。